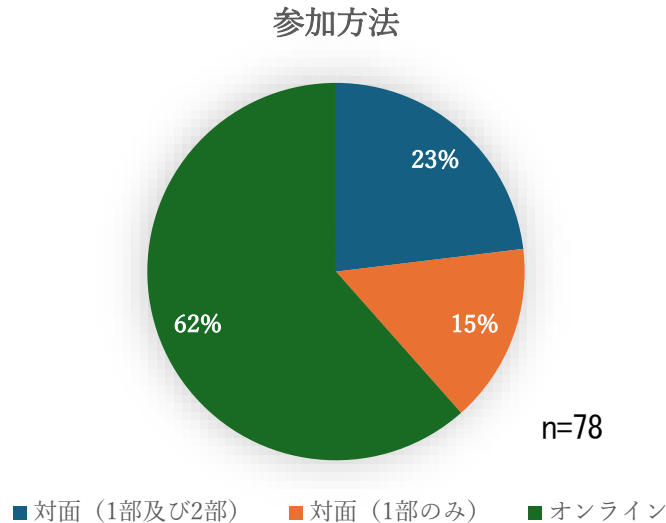


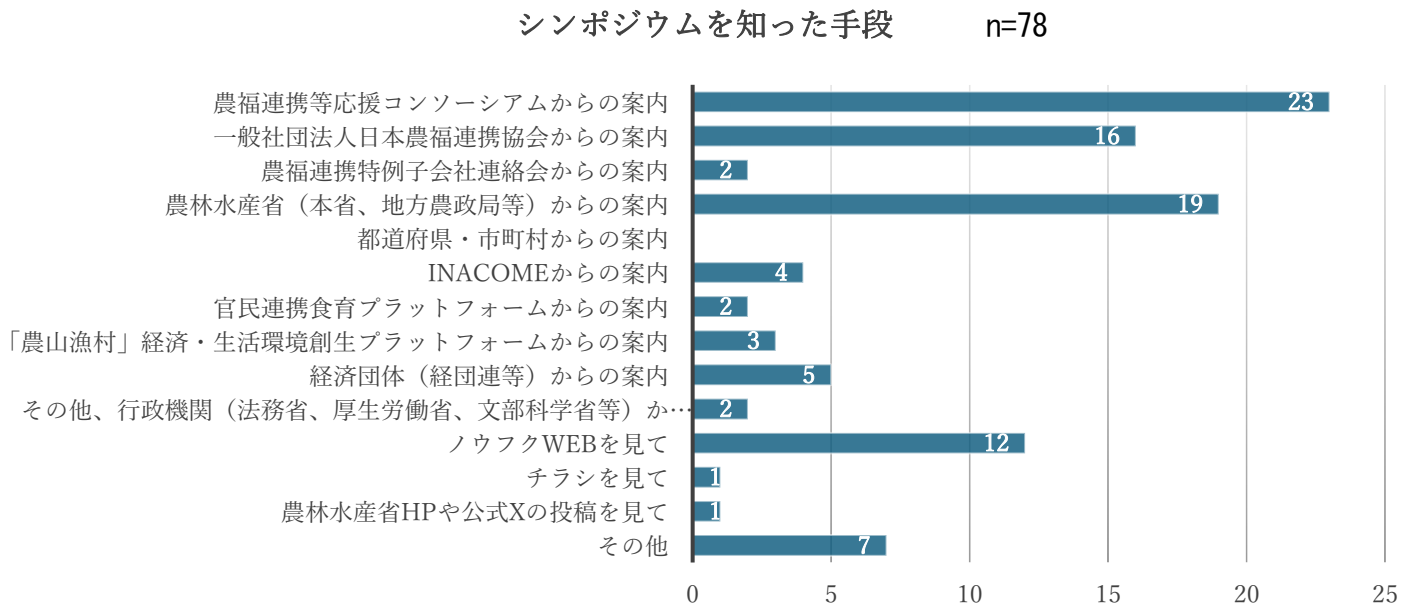
**別添1 「企業×農福連携」 シンポジウム～一緒に農福連携始めませんか？～  
に係るアンケートの集計結果**

10月23日（木）に開催した標記シンポジウムについて、参加者にアンケート（別添）を実施したところ、78の回答があった。回答者の参加方法は、「オンライン」が6割以上を占め、次いで「対面（1部及び2部）」が2割強という状況で、回答内容を集計すると、以下のとおりとなった。



**1 シンポジウムを知った手段（複数選択可）**

シンポジウムを何で知ったかを聞いたところ、「農福連携等応援コンソーシアムからの案内」が一番多く、次いで「農林水産省（本省、地方農政局等）からの案内」、「一般社団法人日本農福連携協会からの案内」となっている。



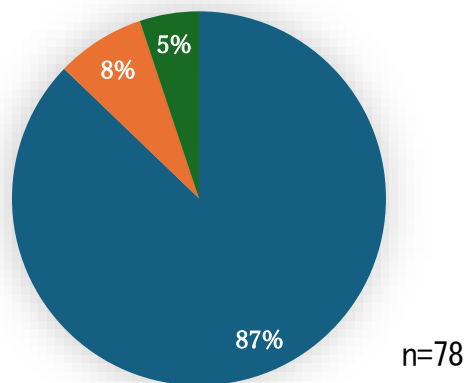
なお、「その他」としては、以下のようなものが挙げられた。

シンポジウム関係者からの案内	取引先からの紹介
日本フィランソロピー協会からの情報	〇〇の社長の紹介
日本農福連携協会の HP より	社内 SNS の情報共有で
	所属長からの共有

## 2 農福連携の認知度

シンポジウムに参加するまで農福連携について知っていたかを聞いたところ、「知っていた」との回答が9割近くを占めた。

農福連携の認知度

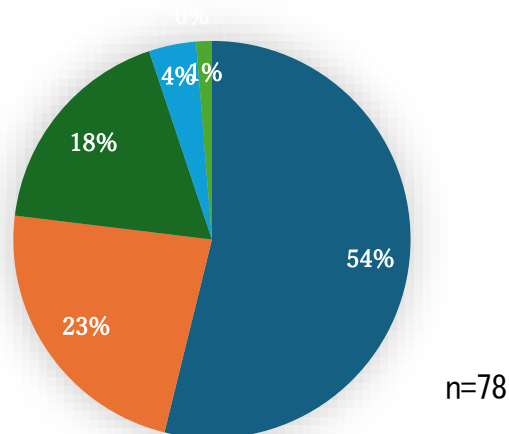


■ 知っていた ■ 名前は聞いたことがあるが内容は知らなかった ■ 知らなかった

## 3 シンポジウムを契機とした理解度

シンポジウムに参加して、農福連携への理解度が深まったかを聞いたところ、過半を占めた「とても深まった」との回答を含めて、程度の差はさておき、「深まった」との回答が9割を超えた。「深まらなかった」との回答はなかった。

シンポジウムを契機とした理解度



■ とても深まった ■ やや深まった ■ 深まった  
 ■ どちらでもない ■ 深まらなかった ■ 未回答

また、以上のように回答した理由としては、概ね以下のようなことが挙げられた。

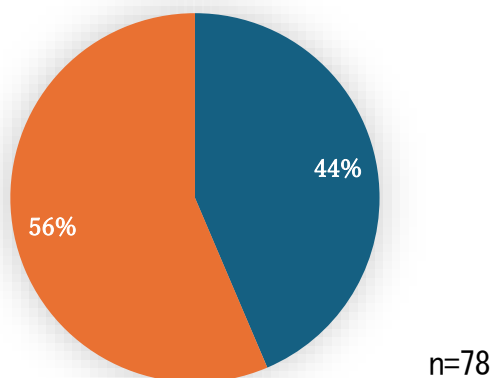
①とても深まった
農福連携の社会的意義はこれまで知っていたが、企業としての取込意義やメリットについて、本日の3社の事例から更に理解を深めた。
農業事業単独ではなく、親会社、自治体、実証実験等、連携を事業においても念頭に置いて行う。
農福連携の交付金をお勧めする際、農福連携のメリットを自分の言葉で説明できるようになったと感じている。大変有意義なシンポジウムだった。
法定雇用率が定められていても前向きに検討できない企業がある一方で、企業ブランドの価値が上がったと発信されたことに深い意味があった。
さまざまな事例を紹介いただいた上で、ノウハウやアドバイス、課題や悩みも共有いただいたから。
障がい者雇用率が高まっていること、企業が特例子会社を作る理由、また農業に参入する理由等が分かった。障がい者が働きやすい環境、またその方たちの長けた部分を見つけ、その方にあった作業で気持ちよく働いてもらうということはとても大変で、難しいと感じた。皆が取り残されない、働きやすい環境を、自分も少しずつ考えようと感じた。
3社の取組を伺い、覚悟、熱意、出会い、本気、そしてその先へといった内容に強く心を打たれた。これらのワードを、いかに自社に落とし込めるかが課題であると認識した。
各社の取組や、取組に対するビジョンを伺い、活動の意味を再確認できた。
特例子会社の農福連携のお話を直接お聞きするのは初めてだった。3パターンの取組方を分かりやすくご説明いただき、理解が深まった。よく議題にあがる「本事業と異なる農業に参入する」という点で、そのストーリーやお考えを知ることができたのは大きな収穫だった。
なかなか企業内部のお話は公開してもらえないことが多い中で、運営の実情を教えてもらえたため、臨場感高くお話を伺うことができたため。
農福連携事業を行っている企業の中でも、法定雇用率のみ重視し、栽培された農作物の販売まで考えていない企業もある中、今回登壇された企業は、販売ルートの構築だけでなく、高品質で、なおかつ付加価値を付けて、黒字化に向けてのビジョンを描いていることに感銘を受けた。
特に、特例子会社としての取組の理解が深まった。
企業さんが、障がい者の人の長所を活かしていることが分かって感心した。
事例を聞いたことが非常に大きい。また、その後の話（質疑応答を含む。）も生きた声として有意義だった。
リアルな他社事例を聞くことができたため。
法解釈や取組事例を伺う中で、気づきが得られたので。
実際に実践されている企業の皆様からの話を具体的に聞いたから。
実際の事例が具体的で分かりやすかった。
② やや深まった
特例子会社での農福連携の先駆的な取組を知ることができた。
オペレーション等、具体的な話をお聞きすることができたため。
実践事例のプレゼンやクロストークが効果的だった。
大手企業が参画するに当たり、どういう課題があったか。
企業の農福連携というものは、我々農家が取り組む農福連携と異なる部分があると再認識できた。

小部の能力向上が事業拡大につながり、それが更なる雇用拡大につながるということ。
企業側の雇用率達成目的からの農福連携推進への変遷（しくみ）が理解できた。
以前からの疑問がフロアからの質問で解決したから。
農林水産省・JR 東日本企画の連携で各主要駅構内に農福ショップ開設も可能性がある。
<b>③ 深まった</b>
企業の事例を聞いたことが大変参考になった。行政や農業委員会と連携することで進めることができると良いと感じた。また、ドローン等の最新技術を取り入れているところも新しい視点として非常に参考になった。
特例子会社の取組について理解が深まった。
企業でも取り組んでいるところがあることを知ることができた。
援農型農福連携等、具体的事例を知ることができたこと。
農作業を受託する形態の農福連携があることを知った。
どのような経緯でこの取組が始まったのか、またその必要性等、具体的な取組を理解した。
企業が農業によって雇用率を満たそうとしていること。
企業の農業参入の選択種。
福祉事業で働いている。農福連携がしたいと思っているから響いた。
当社でも以前より農福連携事業に取り組んでいるから。
既に同様のシンポジウムに何度も参加しているため。
<b>④ どちらでもない</b>
農業に従事する障害者の位置付けが曖昧のように思料される。

#### 4 農福連携の取組の有無

所属するところが農福連携に関する取組を行っているかを聞いたところ、「農福連携に取り組んでいる」との回答は4割強（回答数 34）で、「農福連携に取り組んでいない（過去に取り組んだことがある場合も含む）」との回答が過半（回答数 44）を占めた。

農福連携の取組の有無

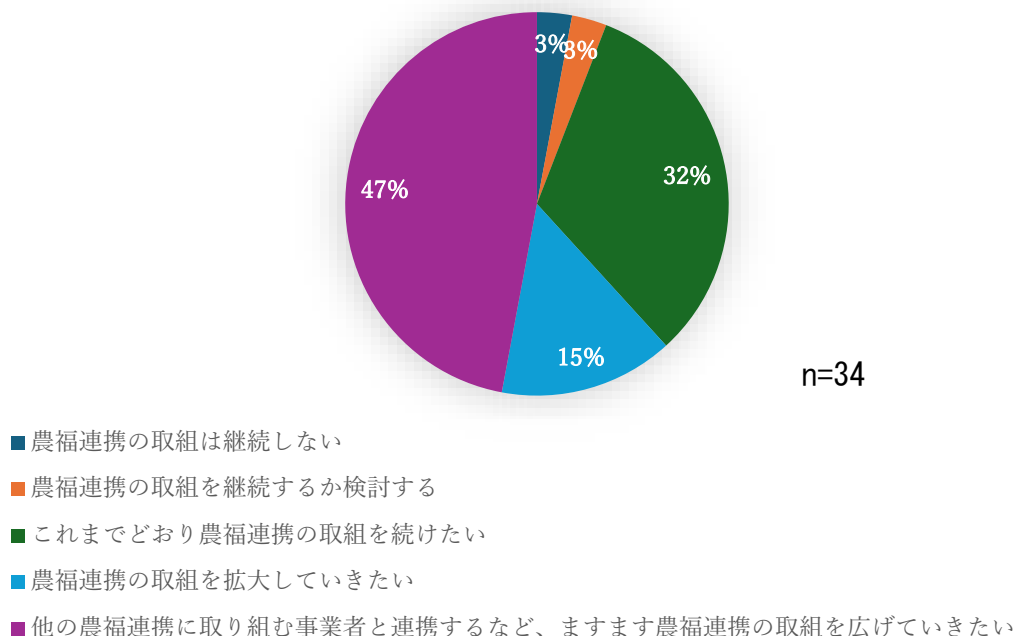


- 農福連携に取り組んでいる
- 農福連携に取り組んでいない（過去に取り組んだことがある場合も含む。）

## 5 シンポジウムを契機とした農福連携の取組方針

シンポジウムに参加して、農福連携についてどのように感じたかを聞いたところ、4で「農福連携に取り組んでいる」と回答した者（34名）では、「他の農福連携に取り組む事業者と連携するなど、ますます農福連携の取組を広げていきたい」との回答が半分近くを占め、次いで「これまでどおり農福連携の取組を続けたい」、「農福連携の取組を拡大していきたい」となった。

シンポジウムを契機とした農福連携の取組方針  
(農福連携に取り組んでいるところ)



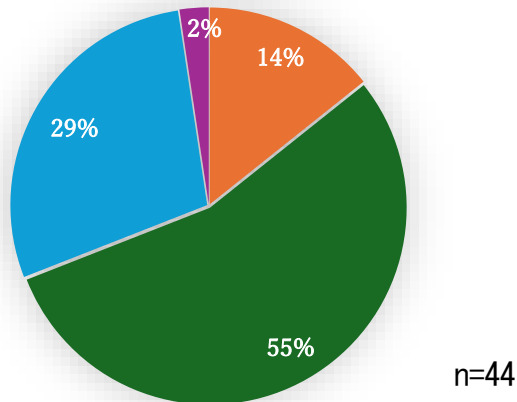
また、それぞれ選択した理由としては、概ね以下のようなことが挙げられた。

① 農福連携の取組は継続しない
障害者（働き手）の農業参加は当社にとっても良い影響も出ているし、障害者にとっての新たな可能性を持っている事業だと思う。
② 農福連携の取組を継続するか検討する
当社の特例子会社で現在、農園事業を行っているが、やはり農園の雇用で雇用率を稼ぐのではなく、本来の事業での採用に絞るべきという考えもあるため。
③ これまでどおり農福連携の取組を続けたい
弊会事業として農福連携事業を行っており、社会にこの事業を更に認知させ、普及していきたい。
会社のミッションとして。
取り組んでいる担当者の状況から。
取り組んだ結果が出ているので。
職務上、農福連携の取組を拡大することは難しいが、可能な範囲で継続していく。
障害者雇用のため。
それぞれの農福連携の魅力があったと思った。

農福連携に意義を感じているから。
有益な取組である。
④ 農福連携の取組を拡大していきたい
これまで具体的な取組がまだできていなく、スポンサー企業として取り組みさせていただいている。今後はより具体的な活動を始めてみようと考えている。まず他社の経験やノウハウを学習して、自社の展開に活かしていきたい。
農福連携は、会社のイメージアップと社員の心理安全性の確保にもつながるため。
ビジネスとしても可能性のある市場と感じた。
国の立場として農村振興に寄与する農福連携の取組推進は必要であると考えている。
行政側として、市内農業法人や認定農家、若い生産者等を対象に、農福連携の理解を進めていきたい。
⑤ 他の農福連携に取り組む事業者と連携するなど、ますます農福連携の取組を広げていきたい
現在プロジェクトを進めているので、たくさんの方々と関わって行きたい。
地域の農福連携を広げ、農福農産物を農商工連携で商品化し、販売することで、消費者にノウハウを浸透させたいため。
当社は既に取り組んでいるが、個人的には更に勉強して関わって行きたいと思っている。
現在、農業分野だけでなく、加齢や体調不良のスタッフのための社内作業や自社作業を模索している。
地域に農福連携の認知度を上げ、連携を通して販売力を上げていきたいため。
刑務所からの出所者の雇用に向けて、理解のある農業者との連携を深めていきたい。
農福連携はすでに開始しているが、行政との連携や農福×IT (AI) 等も将来的には結び付けていくと、障害者の雇用が更に創出できるのではと感じた。
農福連携は、単に労働力の提供 (福祉→農業)、生きがいの提供 (農業→福祉) だけでなく、周囲へのプラスの波及効果が非常に大きいものであることを実感した。
いちごの栽培で苦労されている事業者に伝えたい内容であった。
連携することで双方が売り上げをあげるチャンスがあるのだなと思った。
まず事業所の収益を増加させるよう支援していく。
いろいろなアイデア等を知ることができ、活用できそうだから。
今後さまざまな意味での可能性がある。
講演内容にヒントがあった。
広めていきたい。

一方、4で「農福連携に取り組んでいない（過去に取り組んだことがある場合を含む）」と回答した者（44名）では、過半の者が「農福連携の取組に興味はある」と回答しており、「農福連携の取組に興味があり、検討していきたい」と回答した者と「農福連携の取組を開始したい」と回答した者を合わせると、9割近くの者が肯定的な回答となっている。なお、「農福連携の取組に興味はない」と回答した者はいなかった。

シンポジウムを契機とした農福連携の取組方針  
(農福連携に取り組んでいないところ)



- 農福連携の取組に興味はない
- 農福連携の取組に興味はあるが、開始するのは難しい
- 農福連携の取組に興味はある
- 農福連携の取組に興味があり、検討していきたい
- 農福連携の取組を開始したい

また、それぞれ選択した理由としては、概ね以下のようなことが挙げられた。

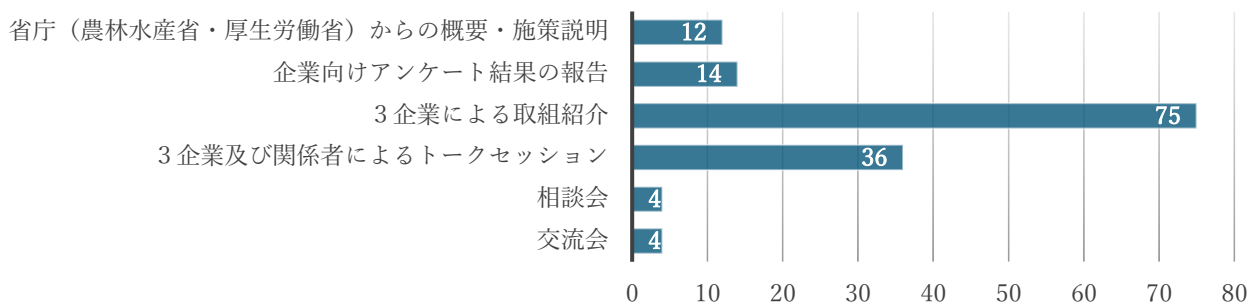
② 農福連携の取組に興味はあるが、開始するのは難しい
一般企業の農業への参入にハードルがある。かつ、会社への理解を得ることの過程にハードルがある。
農福連携に取り組みたいが、会社の許可が出ないから。
業法上の壁、採算上の壁、初期投資額の壁等。
環境が整っていない。
農業参入に失敗した経験があり。
③ 農福連携の取組に興味はある
親会社の農業電化の取組へのサポートで携わったが、撤退により当社も業務停止となった。一方で、定例定型作業という知的障がい者にマッチし、本人たちのやりがいにもつながっていた業務内容であり、今後も機会を探っていきたい。
直接の取組はできない環境にあるため。間接的な関わりは持ちたいと考えている。
更なる雇用活動に繋げたい。
弊社は大豆製品製造機械を製造しており、小型の豆乳製造機を用いたスイーツや、フードの製造を、農業者様及び福祉事業所様へご提案したいと考えているため。
我々の商品を使った農家様がいたので、今後も関わっていきたい。
フィールドが違うので、どのようにかわればいいのか模索中である。関心のある面々はいるので、どんな形でもいいので実践したい。
担当部署ではないため、今後検討が必要。
今後、団体として可能な取組を行っていく。

繁忙期の労力確保が必要。
農福連携は、社会課題を解決する手段として有効なので。
障害者の職域拡大の可能性があるものと思料される。
障害者スタッフの高齢化や特性を考慮すると、農業という選択肢はとても魅力的だが、会社の立地や状況、人的リソースや親会社の考え等を考慮すると難易度は高いと考えていた。今回のシンポジウムを聞き、前向きな気持ちは高まった一方、人、金、時間等がかなり必要なことが明確になり、ハードルもかなり高くなった印象である。
現事業と農業との親和性を見出すのが困難。
他の事業との関連性が薄い。
組織として直接的な取組は難しいため。
個人事業主で、農福連携関係人口の立場だから。
④ 農福連携の取組に興味があり、検討していきたい
市と協同して農福連携の検討を始めたばかりであるため、まだ成果といえるほどのものはないが、今後2か年程度を目途に、できるところから導入をしていく予定である。
既に実証実験は完了し、雇用検討の段階に入っているから。
もともとそういうつもりで、今回参加したから。
既に検討を開始している状況のため。
農福連携技術支援者でもあり、どうにかしてやりたいと思っている。
障害者雇用に携わっていたので、農業でも雇用の場を創出していきたいと思っている。
まだ全体感の把握に至っていないため。
基本的に農地等必要なものの取得に手間がかかるので、検討はしたいが、どうしても時間もかかる。
行政として、セミナーによる周知を図ってきたい。
⑤ 農福連携の取組を開始したい
単独黒字が前提のため、事業構想が立てられない。

## 6 シンポジウムでの良かった（興味深かった）項目（最大3つまで）

シンポジウムで良かった（興味深かった）項目を最大3つまで挙げていただいたところ、「3 企業（帝人ソレイユ・パーソルダイバース・中電ウイング）による取組紹介」が75と、ほとんどの回答者がこの項目を挙げている。次いで「3 企業及び関係者によるトークセッション」が36となっている。

## シンポジウムでの良かった（興味深かった）項目（最大3つまで） n=78



また、それぞれの項目を選んだ理由としては、概ね以下のようなことが挙げられた。

① 省庁（農林水産省・厚生労働省）からの概要・施策説明
現状の把握や知らないことがあった。自社で取り組んでいるプロジェクトのヒントになった。
国の施策への理解と浸透が重要なタスクとなるため。
縦割りになりがちな省庁が連携している模様が分かった。
参考になった。
② 企業向けアンケート結果の報告
現状の把握や知らないことがあった。自社で取り組んでいるプロジェクトのヒントになった。
農福連携に取り組む企業が地域貢献に関心が高いことが分かった。
アンケート結果も含めて、企業の取組が興味深かった。
企業向けのアンケートで実情を知ることができたため。
どのような企業にアンケートを配布しどこから回答があったか知りたい。
③ 3企業（帝人ソレイユ・パーソルダイバース・中電ウイング）による取組紹介
取組を進めている企業の取組内容や課題感が共感できるもので、かつ、今後社内で進めていく参考になったので。
これから具体的に取り組むに当たり、体制づくりや課題認識等がより明確となり、また参加企業とのネットワークも広げて、互いに今後のコラボレーションの可能性も感じている。
単独赤字でも連携による価値創出を示すことで、農福連携を始められる。
企業同士が素晴らしいパートナーシップのもとに取組を進めていっしやることを目の当たりにし、農福連携が少子高齢化や物価高騰等のさまざまな社会課題を解決していくための大きなツールであると感じた。
（帝人様のみ視聴）どのような作業レベルまで、福祉側で行うことができるかの具体例を知ることができたため。
中電ウイングさんの生産、販路開拓から、農業法人を活用した6次化までの取組が素晴らしい。
パーソルダイバースさんの内容が弊社と同じ業態で参考になった。
人材育成について特例にも特別給付金があることが分かった。
障害のある従業員を戦力として位置付けている点が印象的であった。
障害を抱えた社員の働き方がよく分かった。
障害者雇用にとどまらず、イノベーションを含めて広く社会貢献している点が興味深かった。

農福×6次×スマートの取組が先進的である。親会社との関係や理念の素晴らしさ。
いずれも地に足がついていた。製造品について技術的な一流を目指している姿勢に感動した。
農業者は今後の担い手確保の農福連携、企業は定年まで障害者が働ける場所作りと語られたのが印象に残っている。
企業内部の情報をお話いただいたこと、また事業担当者（創業者）の熱き思いを聞くにつけ、自分でも取り組んでみたいと感じることができた。
農福事業に取り組んでいる意義や事業内容を知ることができ、弊会で行っている事業の推進に参考になった。
実際に携わっている方々からの事例の紹介は非常に興味深かった。
実績のある各社の具体的、かつ、生の事例、ノウハウ、課題、悩み等が聞けたから。
字面では分からない苦心点が分かったため。
取組の苦労話等はとても参考になったため。
事業担当者の思いが伝わっている。
業務のため途中退室したが、それまでの企業の取組で疑問な点が解決したため。
貴重な話を聴けて良かったので、参考にしていきたい。
先駆的な取組を知ることができた。特例ならではだと思う。
登壇企業の他とも情報交換できたため。
農業分野と関連のない企業に取り組んでいることに関心があった。
特別支援学校の卒業生の進路の一つが農福連携であると思うから。
いちごの栽培について、知的障害者へのマニュアルやジョブコーチの声掛けの仕方をお聞きしたかった。
具体例の提示は参考になったが、ご苦労話をもっと聞けるとよかったと思う。
<b>④ 3企業及び関係者によるトークセッション</b>
現状の把握や知らないことがあった。自社で取り組んでいるプロジェクトのヒントになった。
これから具体的に取組に当たり、体制づくりや課題認識等がより明確となり、また参加企業とのネットワークも広げて、互いに今後のコラボレーションの可能性も感じている。
企業内部の情報をお話いただいたこと、また事業担当者（創業者）の熱き思いを聞くにつけ、自分でも取り組んでみたいと感じることができた。
単独赤字でも連携による価値創出を示すことで、農福連携を始められる。
企業同士が素晴らしいパートナーシップのもとに取組を進めていっしょることを目の当たりにし、農福連携が少子高齢化や物価高騰等のさまざまな社会課題を解決していくための大きなツールであると感じた。
障害のある従業員を戦力として位置付けている点が印象的であった。
障害者雇用にとどまらず、イノベーションを含めて広く社会貢献している点が興味深かった。
農福×6次×スマートの取組が先進的である。親会社との関係や理念の素晴らしさ。
実績のある各社の具体的、かつ、生の事例、ノウハウ、課題、悩み等が聞けたから。
先進的な事例を、担当者から直接聞けたため。
実際に取り組まれている事例を見ることができたから。
農福連携を行っている企業同士のネットワークを広げることが大事。全国に広げてほしい。
これから取り組もうとする方々の関心の所在が参考になった。
<b>⑤ 相談会</b>
実績のある各社の具体的、かつ、生の事例、ノウハウ、課題、悩み等が聞けたから。

生の声を聞けるのは貴重な機会だった。
⑥ 交流会
登壇企業の他とも情報交換できたため。
時間に制限されない、平時での厚生労働省や農福連携推進室との意見交換が望まれる。
リアルな話が聞けるのがうれしい。

## 7 その他、意見、感想等

最後に、ご意見や感想等を伺ったところ、概ね以下のようなことが挙げられた。

① 今回のシンポジウムに関すること
非常に参考になったし、オンライン参加できたのも良かった。また次回も参加したい。
アーカイブ視聴が可能だったら、今回のシンポジウムをもっとたくさんの方に見てもらいたいと思う。農福連携のイメージが変わると思う。
おかげさまで仕事へのモチベーションが大変大きくなった！私も農福連携を盛り上げるために、自分の立場でできることを尽くしたいという気持ちで一杯。ありがとう。
奥が深いので、いろいろ現場の実態を知らせてくれてありがたい限り。私自身、会計人なので、会計の数字についてもご発表があるとより理解が進んだと思う。
大変さとともに、その面白さ・成果を広めていくことの大切さを感じた。
今回のシンポジウムの資料を配布していただきたい。
資料をQRコード以外でも確認できるとありがたい（PC画面でも確認したい。）。
よい会だった。開催いただきありがとう。
また参加したいので、情報が欲しい。
② 今後の企業部会の活動に関すること
農福連携の現場の見学をしたい。
取組をされている企業様への見学ツアーの実施をお願いしたい。
農福連携における身体障害者の活躍事例があればご教示いただきたい
なかなか難しいかもしれないが、障害者の方が取組に対する発表（感想）も行うようなシンポジウムがあったら良いと感じた。
今回は親会社が大手様のため赤字運営でも事業継続できているが、中小企業ではどうなのか、同じような内容で開催していただきたい。
質問でも何度か出ていたが、損益状況については興味がある（マイナスでも構わないのだが、それが長期継続してやっていける程度のマイナスなのかというのは、参入を検討する側にとって非常に重要）。
企業の農業参入における1つ成功手段としてではなく、必然となっている現況企業の事例紹介を賜りたい。
農福連携を実践して行くに当たり、経費や収益等、開始するに至る面を分かりやすく見えるようにしてもらえるとありがたい。取り組まれている事例もありがたいが、ゼロイチの部分が見えるともっと取り組むところが増えると思う。分からないから取り組めないところが多いということである。
先進事業における好事例はもちろんだが、反省（失敗）事例等も共有いただけると、新たな取組を目指す企業への「光」になるのではと考える。今後ともよろしく願います。
環境の整備をもっと聞きたい（採用・農地の準備、雇用形態、合理的配慮のやり方等）。

<p>当社でも 2018 年にグループ会社で特例子会社事業を立ち上げ、その際に熊谷での福祉法人と連携して、農業事業に参入した。現在も 20 名程度の障害者が活躍してくれている。が、課題としては彼らが作った野菜の商品価値を上げること。「障害者が作った野菜」という偏った考え方により商品価値が上がらず、障害者が仕事を持つことで社会参加にはつながっているが、社会的自立には到底及ばず、特例子会社の運営が親会社やグループ会社からの支援に頼っていることに関しては大きな課題感を感じている。特例子会社の目的は「障害者雇用」だけにとどまっていてそれが目的となっていることに疑問を感じている。</p> <p>今回ご発表いただいた 3 社様は、いずれも社会的自立に向けた取組をしており、会社としても「自立」をされている（目指している）ことを大変感銘を受けた。</p> <p>今後も農福連携の重要性と意義について発信していただけたらと思う。本日は貴重なお話が聞けてとても勉強になった。ありがとう。</p>
<p>苦労も多いと思うが、継続した活動を期待する。</p>
<p>③ その他</p>
<p>農福で使用できそうな機械等をご提案したい。弊社の小型豆乳製造機もすでに就業支援事業所様で導入の実績がある。その他アロマ蒸留機や、コーヒー焙煎機、ピザ窯、農作物を機械を用いて加工することで第 6 次産業につながられる可能性のある機械は多く存在すると思うが、福祉側でも活用していくイメージを紹介することが難しいため。</p>
<p>まず、一般企業への理解度を深める活動が弱いと思う。また、企業参入に関して費用面での援助や補助、協力体制が十分とられていることが必要かと考えられる。</p>
<p>行政・自治体や関連団体からの支援（ヒト・モノ・カネ、ノウハウ等）について、制度の有無や相談相手、アドバイス等を頂けたら、農福連携進出のハードルが下がるため、ありがたい。</p>
<p>私は農福連携技術支援者で、農福連携の取組の支援をしたい。が、その需要がどこにあるのかわからず困っている。支援者をどう活用するかなどの方策はあるか？セミナーをしたり支援者を要請するのみでなく、需給のマッチングをして欲しい。</p>
<p>企業には、農業生産者や農協等にもメリットのある取組を期待したい。</p>
<p>刑務所からの出所者の雇用に取り組んでいる企業等について知りたい。</p>
<p>増えている農福連携の障害者雇用ビジネスについて見解を知りたい。省庁の説明では、メリットもあると話されていたが、デメリットや  そのものの雇用の場として適しているのかどうか、意見をお聞きしたい。農業の興味をもった障害者が困らないことを一番に考えてほしい。</p>
<p>農福連携は勿論、農福商工林業官学連携の必要性を企業に呼びかけ、特別支援学校を卒業する生徒の就労先に繋がるように交流会を進めたい。そして、まずは、始めやすい B 型からの施設外就労を受ける入れる農福連携のスタートから、直接雇用に繋げる手法を企業にも広げる。</p>
<p>特例子会社を持たない企業が、どういう形で農福連携できるかを考えていきたい。</p>
<p>農福連携での黒字化と工賃の UP。</p>